

ChatGPT に聞いてみた 謝罪の定型文を読む人は信用できるか

罪を犯した時、罪を認め、犯した経緯を対策公表する人は信用できか、よく、皆様方にご心配とご迷惑をかけて 2 度とこのような事は致しませんと、定型文を読む人とどっちが信用できる

ChatGPT:

とても重要な問い合わせです。

結論から言えば、「罪を認め、犯した経緯や対策を具体的に説明する人」の方が、一般的にはより信用できると評価される傾向があります。以下に理由を述べます。

1. 具体性と誠意の違い

- **信用される人**

→ 自らの過ちを認め、「なぜそうなったか」「どうすれば防げたか」「今後どう改善するか」を説明する人は、**自分の責任を自覚しており、再発防止に本気で取り組んでいる**と感じられます。

→ これは誠意・信頼回復への意思を見せている行動です。

- **信用されにくい人(定型文だけの人)**

→ 「ご心配とご迷惑をおかけしました」「二度といたしません」などのテンプレートだけで済ませる人は、内容が空虚に響き、「本当に反省しているのか?」「再発防止策は?」と疑問を持たれやすいです。

2. 説明責任を果たしているかどうか

信頼回復には、**「説明責任(アカウンタビリティ)」**が非常に重要です。

何が起きたかを明らかにし、その責任をどう取るかを説明しなければ、社会的信用は回復しません。

3. 本気度が伝わるかどうか

- 犯した経緯や原因、背景にまで踏み込み、**自らの弱さや判断ミスを語ることは勇気が必要です。**
- それをあえて公表する姿勢は、「本気で向き合っている」という姿勢として伝わりやすく、人はその真摯さに共感します。

補足: ただし「演技」にも注意が必要

- 逆に、「具体的に語っているようで内容が曖昧だったり」、「謝罪は巧みでも行動が伴わない」場合は、かえって信頼を失うこともあります。
→ 言葉だけでなく、行動が伴っているかが最終的な信頼の鍵です。

💬 結論まとめ

比較項目	具体的に説明する人	定型文だけ読む人
反省の伝わり方	高い	低い
再発防止への信頼性	高い	不明・低い
社会的信用の回復	現実的	困難なことが多い